

第十六章 特色ある取り組み

【到達目標】

一般研究室を併用した指導体制によって、学生一人ひとりにたいするきめ細やかな学習・生活指導をおこなう。

・教育内容・方法、学生の受け入れ、学生生活、社会貢献、管理運営等において特色ある取り組みを行っている場合の実施状況およびその有効性

【現状の説明】

教育方法にかかわる特色ある取り組みとして、〈一般研究室を併用した指導体制〉をあげたい。これは、①小クラス制を基礎とした指導教員体制、②一般研究室を基礎とした指導体制、という二つの側面からなる指導体制である。以下、より詳しく説明する。

本学では、仏教精神を基礎とした教育をおこなうために、第1学年学生の必修科目として仏教を授業テーマとした小人数クラス制の授業「仏教と人間Ⅰ」が開設されており、担当者には真宗学ないし仏教学を専門とする教員があたり、またこの授業担当者が指導教員となり、導入教育の一環として第1学年次前期に学外クラス別懇談会もおこなっている。これによって指導教員は担当する学生の状況を把握することが可能となり、多様なニーズをもつそれぞれの学生に合わせた学習・生活指導をすることが可能となっている。

一方、そうした小人数クラス制を基礎とした指導教員体制とともに、学科ごとに一般研究室を設置しており、学生は朝からかなり遅い時間まで開室している研究室を自由な時間に利用することができる。それぞれの研究室には、日常の学修活動はもちろん、「卒業研究」作成に際しての参考資料としても十分な図書資料が図書館から回付を受けて置かれており、学生の自由な閲覧・貸出が認められるなど、図書館別館としての機能もはたしている。また、仏教科では助教が、文化学科および幼児教育保育科では専従事務職員が常駐して、人間的なふれあいを基盤とするきめ細やかな学生指導をおこなっている（文化学科には卒業生のアルバイトを2名置いている）。

少人数制クラスをとっている本学では、指導教員同様、各研究室に常駐する助教や専従事務職員が学生一人ひとりの状況を把握しており、指導教員体制と相俟って、学生への的確な指導ができるようにしているのである。このような教員と学生との関係は、同時に、学修・研究・生活の全般にわたった相談を寄せやすい雰囲気を作り出している。

【点検・評価（長所と課題）】

満足度アンケートにおける「開室時間は適切である」「常駐している助手や室員に相談しやすいか」項目への満足度については、前者は69.6ポイント、後者は71.3ポイントであった。これは、90以上の項目のうち、それぞれ第3番目と第2番目の高ポイントであった。このことから、本学の〈一般研究室を併用した指導体制〉が学生にとって有益であることを示している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

文化学科については2009年度入試から学生募集を停止するが、在学生の卒業まではこの制度を続

けてゆく。仏教科および幼児教育保育科の一般研究室については、今後も学生の学修に必要な蔵書構成を心がけ、指導教員と、一般研究室の助教および専従事務職員との連携をさらに密にして、きめ細やかな学修・生活指導をおこなってゆく。